

(シラバス No.11)(専門科目(共通領域))

科目名	行動分析学特論	単位数	2単位	科目コード	A4
	Advanced Seminar on Behavior Analysis	形態	選択		
		担当教員	三田地 真実	教職	-

【授業概要】

「行動分析学」とは「人間がなぜそのように行動するのか」の原理を解き明かそうとしてきた学問分野である。自分の行動も含めて、どのようにして人の行動を理解するための原理についてまず学び、次に、これらの原理を踏まえて、児童生徒の行動を客観的に観察し、その成り立ちについて論理的に考察できることを狙いとする。さらに行動の原理を踏まえた上で、行動支援計画の立案ができること、それに基づいた指導実践が行えることを最終的な狙いとしている。

【授業の到達目標】 本特論を受講した後に習得できる具体的な行動目標は以下の通り：

- ①心理学の根源的問い「人間はなぜそのように行動するのか？」に対して、人間の行動は「意識」によって制御されているのではなく、「結果による選択」(Skinner, 1981)であることを理解できる。
- ②応用行動分析学(ABA)の基本原則(強化の原理、消去の原理など)を理解できる。
- ③ABAの実験パラダイム(シングルケースデザイン)を理解できる。
- ④ABAの基本原則を適用して、自分の行動の制御要因を発見、見直すことができる。
- ⑤ABAの基本原則を適用して、児童生徒を含む、人間行動の制御要因についての仮説を立てられる。
- ⑥上記の仮説に基づいて、具体的な介入方法(問題解決の方法)を立案できる。

【授業計画】

1. オリエンテーション(学校教育と応用行動分析学：なぜ行動分析学が学校現場に必要なのか?)
2. 「行動」とは何か?(オペラント行動とレスポナント行動)
3. 行動観察の基本(具体的な行動で表記すること)
4. 行動を理解するための枠組みとしてのABC分析(ABCフレーム)
5. 強化の原理(正の強化、負の強化)
6. 弱化的原理(正の弱化的、負の弱化的)
7. 消去の原理
8. 観察した行動の機能を分析する、機能的アセスメントの実際
9. 機能的アセスメントの結果に基づく、サマリー仮説の立案
10. サマリー仮説から行動支援計画(競合バイパスモデルを含む)を立案する
11. 個別指導からシステム構築へ(スクールワイドPBS(ポジティブな行動支援))
12. 自分の授業実践をABCフレームで分析し、省察する
13. 自分の生徒指導の実践をABCフレームで分析し、省察する
14. スクールワイドPBSの実践の可能性を検討する
15. 授業のまとめ(本授業のABCフレーム分析)

【評価方法】

「授業内で課すレポート評価」(50%)、「科目修得試験」(50%)の割合で総合して評価する。

【教科書】

アルバート、トールマン著『はじめての応用行動分析(日本語版第二版)』(二瓶社、2004)
 三田地真実・岡村章司著『子育てに活かすABAハンドブック～応用行動分析学の基礎からサポートネットワークづくりまで～』(日本文化科学社、2009)

【参考図書】

石黒康夫・三田地真実著『参画型マネジメントで生徒指導が変わる～スクールワイドPBS導入ガイド16のステップ』(図書文化、2015)
 オニール他『子どもの視点でポジティブに考える問題行動解決支援ハンドブック』(金剛出版、2017)
 オドノヒュー『スキナーの心理学』(二瓶社、2005)
 杉山尚子『行動分析学入門～ヒトの行動の思いがけない理由』(集英社新書、2005)
 レイノルズ著『オペラント心理学入門』(サイエンス社、1978)
 バーロー、ハーセン著『一事例の実験デザイン』(二瓶社、1988)